

見よ!!この暴状を!!!

## 官憲、會社、暴力團の協同戦線

市民の公正なる批判に訴へる

新聞紙は「樂器會社争議團の秘密暴露」「思想に關する事件」「證據品云々」と書きたて警官三百名の包圍、百餘名の檢束者、と如何にも争議團に何等かの秘密でもあつた様になつてゐる。

だが市民諸君、吾等の行動は終始正々堂々たるものだ、労働争議に何の秘密、何の陰謀が在るものか! 多くを云ふ必要はない、今度の争議團荒しが如何なる目的の下に行はれたのであるかは、事件發展の経過を見れば一目瞭然である。

彼等は労働者の力に慄へ上つた

彼等は吾々労働者を馬鹿に仕切つてゐた。だが如何に無智な吾々でも、斯くも露骨な會社、警察の壓迫と横暴を見ては奮起せざるを得ん。職工大會を開いて各工場の労働者は會社糾弾の決議をして争議團を應援した。更らに、それでも會社が反省しない時には、吾々もモウ黙つては居れぬ。五月六日總罷業、總示威運動決行となつた。労働者の正しい批判が行動となつて現はれたのだ。されば、彼等はこの労働者の意志を尊重して、自己の態度を改むべきなのに、何處までも性根の腐つた彼等は一大陰謀をたくらんだのである。陰謀をたくらんだのは争議團ではなくて、彼等貪慾なる資本家である!

小竹の縣廳訪問

縣最高幹部連の來濱

争議團壓迫と檢束

暴力團の逆宣傳ビラ

會社の裏切勸誘

二三日前重役小竹が縣廳を訪問して、警察部長に何事か依頼した、と云ふことは新聞で諸君は既に御承知である。それから直ちに、警察官連中の來濱となつた。そしてあの檢束騒ぎと「新聞にサモ何か重大事件でもあり相な抽象的な發表」市民諸君はこの経過を見て何んだか争議團にも悪いことが有るのではないかと思はれたのは無理はない。然し、此處に奇怪極まるのは、暴力團と會社の行動である。この檢束が行はれるや、時を移さず、労働同志會の名でビラを撒いたり貼つて歩いた。曰く「愈々評議會の幹部が尻尾を出した。彼等と一緒に居ると危険だから早く會社へ歸れ!」と。馬鹿も休み〜に云へた、また會社は「六月一日までに出勤せよ」と端書を出してゐる。然かも吾々が要求した條件を聞くとか聴かぬとかには一言も觸れてゐない。咄ッ貪慾なる資本家奴! 彼等こそ遂に陰謀の尻尾を出したのだ。これでも會社と警察との共同戦線でないと言へるか! 事實の経過が立派に證明してゐるではないか!

吾等は飽くまで戦ふことを誓ふ

今回の事件は要するに、争議團を攪亂して、動搖と不安の念を起さしめ、又市民諸君の吾々に對する絶大な同情を切離し、吾々の要求も、吾々の團結權も蹂躪して、無理矢理に工場に叩き込まうとした陰謀に外ならない。吾々は斷じて斯る横暴、非道なやり方に屈するものではない。

見よ、吾々の結束を! 幹部が居なくても、誰一人として裏切つて工場へ入る様なものは居らぬのだ! 吾々の要求を聴け! それこそ會社が採るべき唯一の途である。速かに反省せよ。

最後に市民諸君に御了解を得たいのは、新聞に報せらる、如き「或る思想宣傳云々」の如きは、全然會社の逆宣傳であつて、吾が争議團には斷じてそんな事實はない、と云ふことである。

幹部を檢束して争議が片付くと思ふか!!!

待遇を改善しなければ労働者の不平は納まらぬ

これだけの道理が判らぬか!!!

市民諸君、速かに市民大會を開いて起て!!!

六月二日

樂器會社争議團  
濱松合同労働組合